

いじめについて考える日（例年は5月、コロナ禍のため延期になりました）

（6月7日全校集会）

今日は、桜小の「いじめについて考える日」です。いじめは絶対ダメです。学級や児童会でいじめについて考えていくきっかけにし、きょうからしっかりと取り組んでください。

「いじめについて考える日」は、平成28年夏の「おおさかこども市会」で、大阪市の各校から代表参加した5・6年生が、いじめを許さない安全安心な学校について議会質問し、提案したことから、翌年に各校で取り組むことになりました。子どもたちが生み出した日なのです。

今日は、いじめと心や気持ちについて話します。2年生以上の人は、昨年桜小に来てお話ししてくださった辻由起子さん（大阪府子ども家庭サポーター）のブラック・ハートとレッド・ハートを覚えていますか。心を容れ物に例えて、気持ちがざわざわするときは、心の容れ物がブラック・ハート【こわい・かなしい・くやしい・さびしい・不安だ・自信がない】でいっぱいになっているときで、ブラック・ハートがたまりすぎて心の容れ物に入りきらなくなったときに、心が引き裂かれたり壊れたり、死んでしまったり、学校に来ることができなくなったりというにつながってしまうときもあるのです。

では、どんな時にブラック・ハートがたまるとかを考えてみてください。

机やノート・プリントへの落書き、脅しの手紙を靴箱に入れるといった「いやがらせ」をされたとき。失敗したときや人と違っていることを笑われたり真似られたりといった「からかい」があったとき。近づくとき急に黙ったり、どこかに離れていかれたりすると「無視・なかまはずれ」をされたとき。死ね、キモイ、消えてしまえ、嫌なあだ名で呼んでくるなど「悪口・言葉の暴力」を受けたとき。叩かれたり、蹴られたり、遊びのふりをしてぶつかられたりといった「暴力」を受けたとき。実は、これらはどれも「いじめ」ですね。

辻さんは、ブラック・ハートを取り出してかわりにレッド・ハート【うれしい、楽しい、しあわせだ、安心だ、元気だ、自信がある】をためていきましょうとおっしゃっていました。自分自身でそれをするのは難しく、周りの人の力が必要です。ブラック・ハートでいっぱいになる前にレッド・ハートにかわっていく声かけをしてあげてほしいのです。「一人じゃないよ。私がついてるよ。」「心配ないよ。」「あなたの味方だよ。」などの言葉かけです。い

じめを許さないという学級の雰囲気をつくることも大事ですね。いじめをした人が心から反省をして謝罪することも有効です。みなさんの周りにブラック・ハートでいっぱいになっている人はいませんか。いじめを許さない安全安心な桜小であるためにどうしたらよいのでしょうか。

校長 稲谷哲也